

文化財を訪ねて 33



▲ 歓喜院の窯跡



▲ 出土瓦

かんぎいん がようあと おおみなかみじんじゃ 歓喜院にある瓦窯跡 - 大水上神社とのつながりを示す瓦 -

近隣の市町に比べて非常に多くの窯跡がある三豊市。窯跡の歴史は、1500年ほど前に操業した宮山窯跡（豊中町：広報みとよ平成23年9月号掲載）から始まり、6～7世紀には高瀬町・三野町・山本町において爆発的に増加し、三野町の宗吉瓦窯跡では当時の都に瓦を運ぶことができるまでに発展しました。その後も平安～鎌倉時代にかけて操業した窯跡のほか、粟島では戦前から現代にかけて達磨窯を操業するなど、窯で土器や瓦を焼いていた一大窯業地域であったことがわかります。

長い窯業の歴史の中で、今回は鎌倉時代に操業していた歓喜院の境内にある窯跡を紹介します。歓喜院の窯跡は、高瀬町下麻にあり、およそ3km南には大水上神社があります。昭和28年に発見され、翌年には県指定史跡になりました。

窯跡は4基確認されており、すべて火を焚く焚口の底は平らになっています。土器や瓦を焼く焼成室の床には火をまんべんなく巡らせる工夫として、焚口から畦がのびています。この畦によって短期間で良質な製品をつくるのが可能となりました。

歓喜院の窯跡から出土した瓦と大水上神社境内にある二ノ宮窯跡から出土した瓦は同じ模様をしていて、同じ瓦工人が製作に関わっていたことがわかります。

歓喜院内の窯跡は、宗吉瓦窯跡以降の窯跡です。宗吉瓦窯跡の操業が終わると、県の窯業の中心は綾川町の「陶」に集約されたと考えられています。それにもかかわらず、高瀬町で引き続き瓦を作っていたことは、県の窯業の歴史を考えるうえでとても興味深い事例といえます。

<生涯学習課>

今月の市民力

山登りを楽しもうと始まった「志保山の会」。地元、七宝山の登山道整備や、志々島の大楠の保存活動のボランティアを行っています。毎年3月に行っている比地大小学校児童との七宝山登山は、今年で12回目を迎えました。ボランティアを続けるためにも、月に1回、1,500m以上の山を登り、季節の景色を楽しみながら、体力づくり。「山でしか出会えない自然と触れ合えることが何にも代えがたい喜び」。自然を愛でる皆さんは温かく優しい空気に包まれていました。会員も随時募集しています。一緒に感動を味わいませんか？

